

## 解説 1

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

- 本課では、補語 (C : 名詞か形容詞) を含む〈第2文型〉と〈第5文型〉を扱う。
- 補語は「名詞を補って説明する語」の意味で、主語 (S : 必ず名詞) を補うものを〈主格補語〉、目的語 (O : 必ず名詞) を補うものを〈目的格補語〉という。
- 第2文型 (SVC) : Cは主語を補う主格補語。内容的に S = Cが成立する
- (S) He is (C) a dancer. 「彼はダンサー (踊り子) だ。」  
※ be 動詞は主格補語をとる典型的な動詞。  
内容的に、主語 = 補語 (He = a dancer) が成立する。補語は名詞。
  - (S) His dance is (C) amazing. 「彼のダンスは (驚くほど) 素晴らしい。」  
※内容的に、His dance = amazing が成立。補語は形容詞。
  - (S) Your perfume smells (C) good. 「あなたの香水はいい香りがする。」  
※一般動詞の中でも、S = C が成立するものは第2文型になる。  
〈状態〉や〈感覚〉などを表す動詞が多い。ここでは Your perfume = good が成立。
- 第5文型 (SVOC) : Cは目的語を補う目的格補語。内容的に O = Cが成立する
- I named (O) the kitten (C) Edoya. 「私はその子猫をエドヤと名付けた。」  
※内容的に、目的語 = 補語 (the kitten = Edoya) が成立。補語は名詞。  
【重要】 O と C の境目に注意する。  
cf. □ Is (S) the kitten (C) Edoya? 「その子猫がエドヤですか。」 (第2文型 : SVC)  
※ be 動詞の疑問文では、S と C の境目に注意する。
  - She painted (O) the walls of her room (C) white. 「彼女は自分の部屋の壁を白く塗った。」  
※内容的に、the walls of her room = white が成立。補語は形容詞。

## A 演習 1 : 基本問題 補語と、それが補う先の名詞を指摘し、さらに全体を日本語に訳しなさい。

- 例 You can call (me) (Tsukasa)  
「私をツカサと呼んでいいですよ。」
1. Are these her shoes?  
「
2. I found this book very interesting.  
「
3. His behavior made people angry. (名詞 behavior 「振る舞い」)  
「
4. She remained silent all through the meeting.  
「

## 演習 1 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. her shoes → these 「これらは彼女の靴ですか。」  
※主語 these を補語となる名詞 her shoes が補っている (these = her shoes)。肯定文は These are her shoes. 「これらは彼女の靴だ。」。SVC。
2. very interesting → this book 「私は、この本がとても興味深いとわかった。」 ※目的語 this book を補語となる形容詞句 very interesting 「とても興味深い」が補う (this book = very interesting)。SVOC。
3. angry → people 「彼の振る舞いは人々を怒らせた。」 ※目的語 people を補語 angry が補う (people = angry)。SVOC。make O C 「O を C にする」。
4. silent → She 「彼女はミーティングを通して黙ったままだった。」 ※主語 She を補語 silent が補う (She = silent)。SVC。all through the meeting は〈時〉を表す副詞句。

**B** 演習 2 : 基本問題 日本語に訳しなさい。

1. This pizza tastes terrible.  
「  
」
2. Please leave the door open.  
「  
」
3. We will make America great again.  
「  
」
4. Is this what you've been looking for all this time?  
「  
」
5. An apple a day keeps the doctor away.  
「  
」
6. She looked tired after a long day of hard work.  
「  
」
7. As he grew older, he became wiser and nicer.  
「  
」
8. He found it hard to return home in time for Christmas.  
「  
」

## 演習 2 : 解答・解説

英文は暗唱できるまで繰り返し音読すること。

1. 「このピザはひどい味がする。」 ※ taste C 「Cの味がする」で、Cは主格補語。ここでは内容的に This pizza = terrible が成立。SVC。一般動詞の第 2 文型は、一般動詞を be 動詞に変えても意味が通じる。
2. 「ドアを開けたままにしておいてください。」 ※ leave O C 「OをCのままに放っておく」で、Cは目的格補語。ここでは the door = open が成立。SVOC。
3. 「私たちはアメリカを再び偉大にするだろう。」 ※ make O C 「OをCにする」。Cは目的格補語で、America = great が成立。SVOC。
4. 「これは、あなたがずっと探し続けているものですか。」 ※ be 動詞の疑問文。主語は this、主格補語は what 以降の名詞節。this = what you've been looking for が成立。SVC。what は先行詞を要さない関係代名詞（「もの、こと」と訳せる）で、looking for に続くべき名詞でもある。all this time 「今まで（ずっと）」は時を表す副詞句。
5. 「1日1個のリンゴが医者を寄せ付けない。」 ※ keep O C 「OをCに保つ」。Cは目的格補語で、the doctor = away 「離れている」（形容詞）が成立。SVOC。a day 「1日につき」は副詞句。
6. 「激務の長い1日のあとで、彼女は疲れているように見えた。」 ※ look C 「Cに見える」。Cは主格補語。SVC。after 以降は〈時〉を表す副詞句。
7. 「年をとるにつれて、彼はより賢明に、より素敵になった。」 ※まず、Asで始まる従属節（副詞節）内には grow C 「成長してCになる」がある。grow old は「年をとる」で、ここでは接続詞 As 「～につれて」を伴うことで比較級の older になっている。he = older が成立。次に、主節内には become C 「Cになる」がある。he = wiser and nicer が成立。文全体では、副詞節は文の要素にあたらないので、主節から判断して SVC となる。
8. 「彼は、クリスマスに間に合って帰省することは難しいと気づいた。」 ※ find O C 「OがCとわかる」。ここでは O は形式目的語の it で、真目的語は to return 「戻ること」以降（to 不定詞の名詞的用法）。SVOC。

年 組 番 氏名

実施日 年 月 日

A	/4
B	/8

検印